



ニュースレター 13/6/1 第26号

≪ 本号の目次 ≫

【特集1】第11回親善交流旅行～メルボルンとその周辺

- (1) 点描；「旅の行程」 宮本忠
- (2) 報告；「学び分かち合おう」 宮本忠
- (3) 随筆；「こんな街に住みたいな！」 立石素子
- (4) 随筆；「私のメルボルン」 宮本由紀子

【特集2】オーストラリア・ニュージーランド協会関係会議など（協会会長）

- (1) 報告；「ニュージーランド - 日本 友好協議会」
富山義啓（協会理事；文責）・北出勲（同理事）
- (2) 報告；「2012年度全国日豪協会連合会総会・神戸大会」 富田正宏（協会副会長）
- (3) 報告；「岐阜日豪協会創立30周年記念30年誌発刊講演会」 宮本忠（協会会長）

【特集1】第11回親善交流旅行～メルボルンとその周辺

(1) 点描；「旅の行程」 宮本忠

旅行期間：11月14日水曜から24日 土曜まで
(10泊(機内2日)11日間)。
利用航空機：南方航空(中国)
旅費：約20万円(一人)



第1日 11月14日 水曜 《いよいよ出発》

関西国際空港 CZ390 14時00分(発)→中国・広州国際空港17時15分(着) 尖閣問題のためか、昨年と異なり乗客はほとんど日本人→(乗換え)昨年と異なり、セキュリティ・手荷物検査なし→広州空港CZ321 21時40分(発)機中(泊)→昨年同様、乗客はほとんど中国人。

第2日 15日 木曜 《ハロー、ガーデンシティー・370万メルボルン》

朝9時40分 空港(着)→シャトルバスでホテルマントラ、チェックイン。16階のコンドミニウム。トラム(無料)でVisitorsセンターにて旅の詳細を詰める。夕方、ホテル近くの韓国料理店で鍋料理。ホテル小店で朝のパン、バナナなど買う。

第3日 16日 金曜 《学習》

空間広く、五感を満たすリアルで楽しいメルボルン博物館。小学生でにぎあう。併設レストランで簡単昼食。ガイドによる世界遺産王立国際博覧館。大学統一試験が一階で行われていた。落ち着いた雰囲気のカールト



ン庭園。メトロ（郊外電車；無料）で明日の全国豪日協会連盟大会の会場の下見。

第4日 17日 土曜 《全国オーストラリア日本協会連盟大会》

南ヤラの会議場において開催。夜、メルボルンタウンホールにて懇親パーティー。（当日の詳細は宮本忠後掲）。

第5日 18日 日曜

午前 ホテルの水泳プール寒く、サウナに飛び込む。サウナの中で、子供の将来のため移民したというマレーシアからの家族と歓談。昼食はマックレントック前連盟会長の招待でホテル近くの中華料理。夕方、イタリアレストラン街を探訪。

第6日 19日 月曜 《メルボルン郊外探訪その1》

海岸道路・グレート オーシャン ロードを行く。朝9時前に気温23度、晴れ。10時 Anglesea の浜でティータイム。海の景観だけでなく車窓からコアラのユーカリの林やクカバラなどのバードウォッチングも。大きなレストランやホテルも立地。アベルベイで自由ランチ。われらは白浜で遊ぶ。バス乗降口は階段ではなくスロープ、バリアフリー。バスはホテルまで出迎えがうれしい。

第7日 20日 火曜 《メルボルン郊外探訪 その2》

朝7時過ぎホテル発。メルボルンからフィリップ湾の東側を囲むように延びているモーニングトン半島 バスツアー。本日も満席。シートベルトなしのマイクロバス。インド系(?)の運転手君がガイド兼務。留学中の日本女性を含むアジア系の客が多い感じ。行き先の異なる複合バスツアー。快晴の海が青くきれい。先ず、乗馬組が降りる。次いでドルフィン(イルカ)と遊ぶ組。私たち温泉組が下車。正午半まで約2時間、見晴らしのよい丘に立つ2005年オープンの大規模温泉リゾート。‘瞑想の湯’などアイデア命名が目立つ。頂上は空と海が広がるパノラマ。日本の温泉からのヒントでこのリゾートが出来たという。昼食は、ワイナリーで。牧場のような農園で‘イチゴ摘み’。小粒だが歯ごたえある甘みの強いおいしいイチゴ。ラベンダー園。園内二つの迷路。僕は入り口の噴水前のベンチで小鳥の囀りを楽しんでた。

第8日 21日 水曜 《他民族社会に触れる》

午前、ビクトリア州議事堂と議会庭園。園内に先住民アボリジニ人権活動家二人の銅像。どこに行っても中国の観光客が目立つ。日本人は少なくなった。セントパトリック大聖堂はオーストラリアで最も背の高い聖堂。聖堂の中は静寂。椅子に座る。街頭の喧騒はほとんど聞こえない。

先日の中華店で飲茶料理。ホテルに帰り休息。4時、雨具持参してクイーン・エリザベス・マーケット。メルボルンの‘夏の夜の風物詩’。世界のおびただしい数の料理屋台や数箇所での野外コンサート、大道芸。大きな音声と料理のニオイの小宇宙。多民族の人で歩けないほどのにぎわい。私たちが試食したのは、たこ焼きやイタリアのタコサラダ、トルコ料理、スペインのパエリア料理。帰りは半時間ほどかけホテルまで歩いた。この民俗の祭典を演出しているのは、日本のS自動車である。

第9日 22日 木曜 《現代都市文明》

午前 朝9時45分、観光客で満員のツーリストシャトルバス(無料)で歴史的のヤラ河付近のメルボルンリサイタルセンター(桂冠指揮者・故岩城宏之がコンサートマスター)。夜8時30分開演だったので、これを断念。ビクトリアアートセンター(ビジュアルから演劇までの文化都市メルボルンの文化の殿堂)。ユーレカタワービル(メルボルンで一番高いビル)92階の88階(300m)にある扉を押して外にでる。初夏の爽やかな風と大都市のざわめき。平成6年完成。メルボルン港 タスマニア海路に行く白い船体 *Spirit of Tasmania* 号の駅ビルと棧橋を散策。ビル店内に出入りする小鳥を聞きながらの熱いコーヒーと甘いケーキ。メルボルン・セントラル駅商店街でタスマニアなどの地図、明日の朝食品などを購入。いろいろの国の料理



を選択できる Food Court でタイ料理。若い男が「マネー、マネー」と「おねだり」。夜8時ホテル。

第10日 23日 金曜 《最終のガーデンシティー》

朝9時00分ホテル（チェックアウト 荷物をフロントに預ける）。朝10時半 ترام（路面電車）で大木の林立するフィッロイ公園へ。種々の小鳥の合唱。公園が広く自動芝刈り機。空にはヘリコプター。街の喧騒は草花大木に吸収され静か。メルボルンフリンダースストリート駅前にぎやか。フェデレーション広場はソロモンからの街頭ミュージシャン、軽快な踊りとバンド演奏。アレキサンドラ公園など。ヤラ河でレガッタ、ボートレース。多様な政府ハウスなどの多彩な公共施設。安らぎのある巨大なボタニカル王立植物園。野外音楽堂か若い女性コーラス。どこにいても‘無料’が多い。「暮らしやすさ世界一」のメルボルンの魅力は尽きない。4時前に遅れてきたツーリストシャトルバスに乗りフリンダース駅前に5時頃着く予定が、渋滞になり6時になってしまった。中華街近くのイタリア料理で食べ納め。8時まえホテルで荷物受け取りタクシーで空港。ホテルで依頼したタクシーが2台来て運転手が僕たちの奪い合いで喧嘩。CZ322 夜11時30分（発）

第11日 24日 土曜 《再開を期して》

中国・広州国際空港 朝6時00分（着）→（乗り換え）→CZ389 朝8時30分（発）3時間30分→関空帰国は午後1時00分、無事、自宅。

（2）報告：「学び分かち合おう」 宮本忠（協会会長）

Sharing and Learning From Each Other「お互いから学び、分かち合おう」をスローガンにした第6回全国オーストラリア日本協会連盟大会が、ビクトリア州都メルボルン南ヤラのホテルにおいて、11月17日（土）に成功のうちに開催された。日本の20倍以上の面積をもつオーストラリア全土から10協会（参加協会は後掲）が集い、日本からは、わが協会及び大阪協会が出席した。会議は午前9時10分、Murray Sayers ビクトリア日本オーストラリア協会会長の開会挨拶で始まった。冒頭演説は、最近、キャンベラに着任された、秋元義孝特命全権大使（在オーストラリア日本国大使館）であった。基調演説は、Murray McLean 駐日本オーストラリア前大使・全国オーストラリア日本協会連盟名誉議長であった。いずれも、両国関係の重要性が強調された。

<10時から10時30分：モーニング・ティー>

<10時30分から11時：報告と質疑応答>

三重協会の活動報告を宮本忠が行った。立石素子及び宮本由紀子も挨拶した。大阪協会から二人の参加があった。神戸協会の太田敏一会長からの email メッセージの披露があった。

続いて、基調講演が、日本で教師(JETTA) をしていた Peter Gillam 氏により「ボランティアリング：東北経験」というテーマでなされた。同氏の在日中、まさに東日本大震災が発生した。同氏は、ボランティアとして東北に入られた。その体験談やオーストラリアの政府、人々などからの募金・支援や活動が報告された。私の知らない事実が次々に告げられ、深い感銘を受けた。

報告と質疑応答

「福岡、アジア・パシフィック子供会議」が、Ellen Waters さん、及び 12歳の二人の青春大使 Eliza Dalton さんと Yusra Tawlic さんによってなされた。子供会議に参加したときの体験を、ビデオとスライドを使って元気に報告してくれた。初めての海外旅行であり、文化の異なるホームステイや学校訪問は、驚くべき素晴らしい生活体験だった。帰国後も友情を分かちあっている。

<正午から13時：会場ランチ>

<13時30分から4時30分：連盟会議>

私たちは懇親パーティーまでホテルに帰って休憩をとった。午後の連盟会議は以下のようなものである。



< 13時から13時30分：ぶっくらうんじ（本の紹介） >

Stephen Peterson（著）『History of the Australia-Japan Society of Victoria Inc』 『ビクトリアのオーストラリア日本協会史』 が Frank Paton 氏によって紹介された。

< 13時30分から16時30分：各協会活動報告及び討議 >

タウンズビル、クーンズランド、ノース クイーンズランド、サウスオーストラリア、ニューサウスウェールズ、コフスハーバー、サウスオーストラリア友好協会、キャンベラ。ノーザンテリトリー（平山幸子さん）、カウラ、そしてビクトリア。

その夜、由緒あるメルボルン市庁舎・タウンホールで心のこもった懇親パーティーがメルボルン市議会議長のケント オングさんのユーモアあふれる歓迎スピーチで始まった。僕の隣の席はクイーンズランドからの、大きな声でよく笑う明るい協会会長夫妻。大会翌日、昼食に招待していただいたマクレン前連盟会長さんから中華料理の席上で、次回2015年第7回連盟大会がクイーンズランドで開催されることを知らされた。懇親会の向かいの席は、第8回連盟大会開催を予定(?)しているノーザンテリトリー代表の平山幸子さんだった。「ダーウインの庭のあまーく実ったマンゴがバケツ一杯で売っています。ぜひ、三重協会のみなさんといらしてください」とお誘いを受けた。平山さんの右隣の席がメルボルン協会事をしている Sakurako Skaggs 夫妻であった。桜子さんは日本女性で協会の日本人・語担当で、今回大変お世話になった。フルコースのすばらしい食事の後は、タウンホールのギャラリーや姉妹都市コーナー、メルボルン市会議場の案内が議長のオングさんにより行われた。ゆったり散策。二年前、JRPS 三重の人たちを後援してキャンベラを旅したときにお世話になった、Tony Mooney カウラ協会会長さんと再会の握手をすることができた。日本女性と結婚している南オーストラリアの協会会長さんが僕のところにうれしそうに来て、「〇〇子が議長席に座っているよ」と僕の手を引いて議場に連れ出した。

メルボルンの姉妹都市は、大阪市（1978年）、天津（中華人民共和国；1980年）

ロサンゼルス（アメリカ；1982年）の他、ギリシャ、ロシア、イタリア、スリランカなどの都市と姉妹都市関係を結んでいる。

懇親会も終わりに近づいた頃、重厚な扉を開け、テラスに出た瞬間、夜のメルボルン中心街のトラムや自動車、にぎわいが飛び込んできた。御多忙の中、在メルボルン日本国総領事側嶋秀展さんに案内されながら、ホテルに戻った。

注記；本報告は、特集2に掲載されるべきだが、便宜上、特集1に組み込んだ。

(3) 随筆；「こんな街に住みたいな！」 立石素子

11月14日水曜日午後2時に関空から飛び立ち、枯れ葉が舞い始めた日本から初夏のメルボルンへ。当地の公園ではバラの花が盛りでした。一年間に二度も夏を楽しめることに感謝して滞在中は毎日を大切に過ごしたいと考えていました。協会の行事にはすべて参加することにして、豪日協会連合会大会にも勇気を出して出席いたしました。

大会では駐オーストラリア日本大使、連合会会長の挨拶などがあり30分のコーヒブレイク(会議の予定表によるとオーストラリアではモーニング・ティーというらしい)。そのモーニング・ティーの時に立派な紳士に日本語で話しかけられました。そうやん、日豪協会は日本に関心のある人々の集まりやから日本語でええやん

と思うとすっかり気持ちも楽になりました。その後東北震災の復興活動にボランティアとして参加された英語教師の方の報告、小学生の女の子二人による福岡での留学体験発表を聞きました。「言葉が分かるだけでは真の支援活動は難しい、言葉の背景にある文化を知る必要がある」とのこと。生活を共にすることで相手の文化



豪日協会主催の歓迎晩餐会



がわかり偏見や差別がなくなるなど相手の文化を知ることの大切さについて映像を交えて語られました。

晩餐会は、市庁舎の一室で行われ、日本の総領事も出席されました。その重厚で華やかな雰囲気とともに美味しいワインの味は親善旅行ならではの格別な思い出となりました。

大会開催地となったメルボルンはとても素敵な街です。人口370万人の町の中心には、無料で乗ることができるシティーサークルと呼ばれる市電が12分毎に文字通り市街の中心をぐるぐるとまわっています。シティーサークルは何か所かで放射状に郊外へ向かう路線に連絡しています。美術館、アートセンター、リサイタルホールなどは市中心街の南を流れるヤラ川をはさんだ対岸に集まっていました。中華街には中華の店が、リトルイタリーにはイタリア料理のレストランがたくさんありました。市内にいくつかある大きなショッピングセンターにも無料の市電を利用すれば簡単に行くことができましたので買い物も食事も選択肢がたくさんありました。この無料市電で観光地もほとんど回ることができます。市の面積の四分の一は公園、緑がいっぱいでレ



メルボルン市内中心部を無料で回るシティーサークル

ストランの中に小鳥が入ってくることもありました。こんな町に住みたいな！と思うのは私だけではありません。住みたいと思う人が世界一多いのがメルボルンだそうです。日本でもこんなに暮らしよい町がいつかできるのでしょうか。

今回の旅も、いつものように、会長の宮本さんが資料を何度も読み返し訪問先の位置関係を確認し、シニア会員の疲労に配慮した、心配りの行き届いたものになりました。そのおかげで、わたしは出発直前に痛め足を引きずっていたのですが、しっかり見て、触れて、楽しむことができました。

(4) 随筆：「私のメルボルン」 宮本由紀子

一味違ったメルボルンをご案内します。飛行機がメルボルンに近づくと機内では、メルボルンについてのビデオが流れます。公園が400個、面積は四分の一と緑の多さを強調しています。

空港からホテルまで一人17ドルのシャトルバスにゆられて満員の相乗りです。エコノミークラスの機内では睡眠不足と疲れを持ち込みますから、ホテルの水泳プールやサウナでリラックス。ホテルの温水プールは6階にあり、部屋の鍵で使えます。六階の屋上にあり、一度ビルの外（屋上）に出てプールの建物に入ります。時間や天気によっては寒さが身にしみます。プールの水温は低いので入るのに勇気が必要です。まずサウナで温まってからとかサウナにすぐとびこむとか方法はいくらかでもあります。

もっと本格的な温泉で温まりたい方は、モーニングトン半島にある Peninsula Hot Springs をおすすめします。市内からは1時間弱のドライブです。水着着用ですが、水温は35度から42度です。637mの深さから50度の温泉がでています。17ヘクタールの場所に20の大きささまざまな温泉が点在しています。サイレントプールと名づけられた、お静かに！というものもあります。42度のプールでは、長く入らないでと注意書きがあります。洞窟プールやミストプールやサウナもあります。360度の展望がきく温泉もあり、いつもにぎあっています。

この地域はワインも果物も豊富な地域ですので、ワイナリーでの試飲や軽食、季節ごとの果物つみやショッピングが楽しめます。今回はイチゴ狩りをしました。固いイチゴでしたが甘くおいしかったです。食べ放題ではなく、決められたパックに入れるものでした。摘み残された小さな赤いイチゴがかわいそうだったので、それをつんできました。「洗わずに食べることはおすすめできません」と立て札がたててありましたので、味見したい方は畑の外の水場で洗って食べることになります。売店では大きないちごやいちご製品を売っていますので買い物だけでもできるようになっていました。いちごがいっぱいのスイーツもたべられるカフェもありました。



市内一巡の乗り降り自由で無料の City Circle Tram (路面電車) で何周でもどうぞ。街の様子や主な見所を頭にいれることができます。ただし、時間は日曜日から水曜日まで10時から6時まで、木曜日から土曜日までは10時から9時までですから運行時間に注意が必要です。また、少し遠くまで足をのびたい方は同じく乗り降り自由で無料の Melbourne Visitor Shuttle の市内循環バスがあります。9時30分から30分ごとに90分で一循環しますが、最終時間は3時45分ですからそれを逃すと帰るのに苦労します。有料の乗り物がありますが乗りこなすのに大変です。ゾーンごとに値段がわかれている、2時間乗り降り自由で郊外電車にもつかえますが、郊外電車の場合は、時間帯によって行き先乗り換えが必要になってきます。シドニー在住の人が「メルボルンの交通システムはクレイジーだ」といっていました。トラム車内で乗車券を自動券売機で購入することができましたが、12月からは車内では買えないシステムにかわりとPRしてありました。「事前に購入してから乗るよう」にと。

私たちは、先ず、インフォメーションセンターでパンフレットを見ながら、また、係りの人にアドバイスを求めながら詳細計画を立てました。Melbourne Official Visitor Guide (メルボルン公式ガイドブック) を最初にみて研究する必要があります。なぜなら、拾い読みか写真だけでも丹念にみていきますと、有用な情報があるのであります。このページをみせると割引特典が得られます(10%引き)という情報があるからです。その情報を知ってからインフォメーションセンターで予約を入れると、お得感がおおきいでしょう。また、同じようなツアーがあり値段はいろいろですから研究する価値はあります。99ドルで乗り合わせたお隣さんが66ドルと知って、ガッカリということもあります。66ドルは、日本でインターネット予約だそうですので、日本で計画中に研究する必要性もあります。

さて、ガーデンシティのメルボルンですが、いたるところに公園があります。ビルの角地、角地が公園になっている感じです。フリンダーズ駅のヤラ川にかかる橋から郊外にむかって Alexandra Gardens, Queen Victoria Gardens, King's Domain そして Royal Botanic Gardens と公園が続きます。なんとか行きは歩き着きましたが、帰りは無料バスに乗りました。市内循環バスはボタニックガーデンまでいきます。ボタニックガーデンでは、Spring discover walk「春をさがそう」という公園ツアーがありましたが、今回は、のんびりの旅にもかかわらず時間がなくあきらめました。1時間30分かかり参加しなかったことが、心残りでした。Tea Time をとり芝生でのんびりと自分たち流の過ごし方をして、もっとのんびりしたかったのになぜかせかされてバスにのりました。何とそれが最終バスでもうすこしで泣く泣く市内中心部まで歩かなければならないところでした。日は高いし一周しようと思っていたら交通渋滞が始まり、なかなか目的地までたどり着けません。途中で降りてトラムに乗り換えた人たちもいましたが、折角だからと一周してしまいました。ボタニックガーデンから乗りボタニックガーデンまで行き、その先の終点・アート

センターまで乗っていました。ボタニックガーデンが終点だと困りますから、運転手さんに終点場所を確認しました。その後に放送が入りました。「アートセンターが終点です。その後のバスは運行しません。このバスは最終バスです。あとはトラムにのってください」とくりかえしくりかえし案内がありました。でも、曜日によってはトラムもなくなります。オー!マイブッダ (ゴッド)。

【特集2】オーストラリア・ニューージーランド協会関係会議など (協会会長)

2012年度は、関係会議などが集中した。そこで当協会が参加した会議などの報告を通じて学ぶことにした。

(1) 報告；「ニューージーランド - 日本 友好協議会」

富山義啓 (協会理事；文責)・北出勲 (同理事)

11月19日 14時~18時30分 大阪 リッツカールトン

ニューージーランド大使 マーク・シンクレア氏が本年9月に日本へ着任したのを機に、友好関係を深め、人的交流、交易を活発化するために広く意見を求めることを目的としたものであった。両国は昨年、オークランド



および東北での震災に見舞われ大変な痛手を被った。両国の人々の交流は、日本人生徒の語学研修以外は大きく落ち込んでいるのが現状である。

参加者は北は北海道から南は九州まで広範囲に及び、それぞれの所属も市町村、各地の友好協会、学術研究機関、物流関係会社など、これも広範囲なものであった。

我々に与えられた課題は、以下のようなものであった。

- ①震災などで減少している NZ への渡航者、NZ からの来日者を増やすために姉妹都市、友好協会として何ができるか。
- ②姉妹都市、友好都市交流が抱える問題点と対策



これらの課題について 4 グループに別れて、討論し発表した。この発表では以下の意見が出された。

①の課題に対して

- ・両国の震災について、マスコミが一部をクローズアップして伝えているがために、正確な情報がそれぞれの国民に伝わっていない。これに関しては、それぞれの協会が草の根レベルで広報活動を行っていくとともに、大使館もその努力をするべきである。
- ・ニュージーランドが今後、日本との多方面に渡る交流を進めていきたいという意思の表明を日本国民に対して、積極的に示すべきである。
- ・相互の若者の語学教育をインターネットを使って進めていくことができるプログラムの構築を検討できるとよい。
- ・在日ニュージーランド人と全国にある友好協会が共同で活動できる機会を準備できないものか
- ・それぞれの組織の力を結集できるような企画が検討できないか。しかしこの問題は、日本自体がすべて東京集中型になっている状況では、ネットを利用するような方向で考えていかないと企画倒れになってしまう可能性がある。
- ・語学研修、退職者以外の世代にとって魅力的な企画を低料金で提供できないか。例えば育児に携わっている世代が学べる内容とか。
- ・農産物の共同で育成などを活性化する。
- ・航空運賃をより下げる努力をするべきである。

②の課題に対して

- ・それぞれの協会を構成するメンバーの高齢化が著しく、組織を継続していく次の世代が育っていない。
- ・民間レベルの草の根友好協会と市町村レベルの友好協会では、協働態勢は取りにくいだが、情報を共有していくことで、新たな可能性も生まれくる。今回のような友好協議会を 1、2 年に 1 度、大使館主催で開催していただきたい。

(2) 報告：「2012年度全国日豪協会連合会総会・神戸大会」 富田正宏（協会副会長）

標記神戸大会が、昨年 11 月に神戸で開催されました。当初の 5 月開催予定から 11 月開催に変更され、宮本会長の第 11 回豪 NZ 親善交流の旅～メルボルン旅行～の日程と重なったため、私が代わって出席しました。主催は創立 40 周年を迎えた NPO 法人神戸日豪協会でした。日程は次の通りです。

日時	11月24日(土) 14:00～20:30
会場	ANA クラウンプラザ神戸 9F メリッサの間(理事会・総会・記念シンポジウム) 10F The Ballroom(懇親会)
	神戸市中央区北野町1-1(新幹線「新神戸」駅直結) (078)291-1121(代表)



第一部 全国日豪協会連合会理事会 14:00～15:00

第二部 全国日豪協会連合会定時総会 15:00～16:30

第三部 記念シンポジウム 16:45～18:15

テーマ「Nothing Ventured, Nothing Gained」～虎穴にいらずんば虎子を得ず～

最近の日本の若者は海外留学や海外赴任に後ろ向き！？国際競争力をつける教育とは？

パネリスト ミラー駐日豪大使・神戸日豪協会 太田会長他

第四部 懇親会 18:30分～20:30

(神戸日豪協会設立40周年記念を兼ねて実施)

次に内容ですが、理事会で「2010・11年度 事業報告書及び収支決算書(案)」、

「2012・13年度 事業計画書(案)及び収支予算書(案)」、「規約改定(案)」、「役員選任」、「その他」(次回2014年開催地)の議案が審議され、総会に提案されました。

収支予算書(案)や規約改定(案)について活発な意見交換がなされ、「総会の成立は委任状を含め参加協会の過半数とし、議決は出席協会の過半数とする」ことが確認されました。今回は参加14協会、委任状4協会、計18協会の出席でした。なお、次回2014年開催地には京都が立候補しました。

記念シンポジウムは、まずBruce Miller 駐日豪大使が上記テーマに沿って、大使自身の豊富な体験と客観的データに基づいて、ユーモアを交えながら基調報告をしました。その後、神戸日豪協会太田敏一会長他パネリストとフロアが一体となって、意見交換をしました。日本の若者に対して私たちが強い期待を持っていることが会場の若者に伝わり、また彼らからも真剣な姿勢を感じることができて、有意義なシンポジウムとなりました。

懇親会は広い会場に移動して、神戸日豪協会設立40周年記念を兼ねて、盛大に実施されました。おそらく100名以上の参加者があったものと思います。1995年の阪神・淡路大震災を乗り越え、「日本語補助教員派遣プログラム」や「交換留学プログラム」等、若者の人的交流を推進してきたことが、あのような盛會に結びついたものと思います。

(3) 報告：「岐阜日豪協会創立30周年記念30年誌発刊講演会」 宮本忠（協会会長）

横殴りの激しい暴雨の中、わが協会、岐阜高山そして静岡協会も参加して下記のような講演会が举行された。

12月8日（土）15時から講演会。じゅうろくプラザ4階研修室。

演題「東山動物園で会えるオーストラリアの動物」。講師は名古屋市東山動物園教育普及主幹の黒邊雅実（クロベマサミ獣医師）。講演後、懇親会があった。

編集後記

私の勤務先の四日市市役所では、この4月に機構改革を行い「こども未来部」を新設しました。私は3月まで「児童福祉課」で主に保育園に関する業務を担当していましたが、この4月からは「保育幼稚園課」に配属になり、保育園に加えて幼稚園に関する業務も担当することになりました。年度替わりの業務だけでなく新しい業務も増え、めまぐるしい4月5月を送りました。ニュースレターの編集もできる限り早くと思いながら、この時期になってしまい、宮本先生にご心配をかけしてしまい、申し訳ありませんでした。でも、会報の編集で、みなさんの旅行の報告など拝見することができ、私も旅行に行ったような気分になり、ストレス解消になりました。(稲)

発行 三重オーストラリア・ニュージーランド協会

発行責任者 宮本忠 TEL/FAX 059-368-2112

〒510-0226 鈴鹿市岸岡町2626の95

Email: tyy15m@mecha.ne.jp

※ この会報にある文章・写真の無断掲載はご遠慮下さい。